時事新報

軍備擴張の緩急

軍備擴張は當今の急務たるみと論を須たず日本國中一人も異論なきは我輩の保證する所なりと雖も其擴張の方法に至りては前後緩急の論少からざれば我輩は衆議院が熟思熟慮して政府の原案を修正せんみとを待ち設けたるに其甲斐なく豫算案の全體を其まゝ通過したるは我輩の甚だ遺憾に思ふ所なり抑も今回の軍備擴張たる一見すれば堂々たるが如しと雖も其實空前絶後の大計畫にして陸軍のみに就て云はんに明治二十九年度より三十四年度に一億六千二百三十萬圓を費し更らに第二期の計畫に於て三千八百五十萬圓を費し前後二億八百萬圓を支出するみとにして此經費を以て幾何の陸軍を見る可きやと云ふに豫備、後備、現役を通算して概略五十四萬人以上六十萬人以下に達す可き計算なりと云ふ即ち此計畫にして成就したる曉には日本の兵備機關は忽ち勃發して封建時代の士族戰員より超過するみと十四萬乃至二十萬に達す可き計算なり我輩は二億八百萬圓の費にも驚かず五十四萬人の數をも怪しまず日本の安全を保たんには是非とも必要なる人員經費なりと云はゞ悦んで相談に應ぜんと欲するものなりと雖も且らく政府が海軍の爲めに如何なる計畫を立つるかを見んに前後の二計畫を通じて二億四千三百五十萬圓を費さんとするに過ぎず若し陸軍に五十四萬以上の大兵を備へずんば安全を保つ能はざるほどの國狀ならば僅に陸軍の經費を超ゆるみと三千五百萬圓に過ぎざる海軍に依りて果して日本海支那海を縱横して覇權を保つを得べきか甚だ懸念に堪へざる次第なり況んや近時新奇なる武器は年々歳々に發明せられ一器の使用に堪ふる年月は十年を出でずと云へば現今の軍艦武器の十年後に至りて使用に堪ふるものは極めて僅少ならざる可らず愈々以て海軍の力は充分なりと云ふ能はざるなり然るに近時の戰鬪の證據立つる所によれば此懸念に堪へざる海軍みそ最も日本國民の依頼せざる可らざるものたるみと明々白々たり現に一昨年支那兵が牙山を占領したる時、一歩を進んで我兵を京城に入れて機先を制したるものは軍艦の力に外ならず南洋灣に支那軍艦を擊沈して其軍艦を挫きしも軍艦の力に外ならず最後に大孤山沖に支那艦隊を擊破して渤海復た一の支那船を見ざるに至らしめたるものも軍艦の力に外ならず若しも此時に當りて渤海支那海の權力を我に收めざりしならば如何なる惨事の生ず可きや豫じめ知る可らず支那軍艦は假たれども丁汝昌の建策の如く支那艦隊にして遠巡策を取りしならば我國は却つて守防に立ちしやも知る可らず此に至つて先づ海上の權を占むる者遂に勝たんと云ひしナポレヲンの言愈々味ありと云ふ可し日清戰爭の結局に鑑みて歐洲列國が鋭意して海軍擴張を勉むるは如何にも尤もなる次第なり然るに斯かる經驗あるにも係らず我當局が海軍を重んずるみと割合に輕きは如何にも我輩の解する能はざる所なり或は陸軍は歷史來多く海軍に技術軍人多きが爲め陸軍は自然に政略上の發言權を有するみと多きによるとの説もあらんかなれども是等は政府部内の情實我輩の關着する要せざる所にして若しも斯る事情に由りて海陸軍に偏輕重を生じ一旦緩急の時に臨んで民心不安の事もあらば其責輕からずと云ふ可し故に我輩は更らに政府の一着を促がし若しも兩様共に一時の大擴張を難んずるの事情わらば少しく陸軍の手を弛めても海軍の方に十分の力を注がんみとを勸告するものなり我輩敢て海陸軍の何れにも偏するに非ずと雖も唯我海國たるの形勢を重んじ又一昨年來經驗したる戰爭の事實に徴し兩者擴張の輕重をば云はずして其緩急前後を論ずるのみ鄙言若し聽かれざるに於ては臍を噬むの後悔多年を出でざる可しと今より默想して寒心に堪へざる所なり

雜報

○朝鮮通信

一月三十日發　特派員　聞利子入五郎

洪州の暴徒

洪州に暴徒起り頗る猖獗なりとの報あり鎭撫の爲め親衞隊を派遣したる由は已に過日報道せし所なるが今其後の模樣を聞くに暴徒は早くも之を探知して親衞隊の同地に着せし折は何處にか遁逃し寂として蹤影を認めざりしといふ左れば親衞隊も近々歸營するよし

春川の暴徒

春川地方の暴徒は未だ鎭定せざるを以て更に内部主事李奎鎭を該地に派し詔勅を持して鎭撫せしむると云ふ

春川觀察使の遭難

過日春川の觀察使曹寅承氏が任所に赴くに際し政府は護衞兵を率ゐるみとを勸めたるも氏は地方官にして兵を引率するは不都合なりとて之を謝絶し單身暴徒の中に入り百方鎭撫に盡力したるも彼等は之に服せざるのみか遂には氏を殺害したりとの報、今日其筋に達したり依て子息某は事變取調の爲め直に出發春川に向ひたるよし事の詳細は次便に報道すべし

京仁間の鐵道

京仁間に鐵道敷設のみとは夙に内外人の注目し居たる所にして殊に我邦人中には屢々計畫せんとして豫算の調製までもなしたるものあり唯時の朝鮮政府に種々の事情ありて其許可を得ず曠しく時日を過し來りしが近來同政府の要路に米國好きの人ありて同國の或る會社を政府に紹介し之に敷設せしめんと企て政府も同意して愈々實行に決定したれども之を以て一會社の私有とせば後來弊害を釀すの恐なきにあらざればとて遂に謝絶し今回の外債募集に加へて更に二百萬圓を募り政府にて直に敷設に着手すべしと云ふ外債募集は固より日本よりする筈なるが日本にして萬一謝絶するあらば當國の財政は全然米國人の手に落つるやも計り難かるべしとなり

仁尾度支顧問の出發

仁尾度支顧問官は來月四日仁川出帆の長門丸にて補佐官三輪一夫氏及び財務官一名と共に歸朝する筈、右は全く國債募集の爲めなりといふ蓋し當國財政の困難は内外共に知悉する所にして要は其百事秩序なきに基すれば苟も之を整理せば敢て財政の困難を他に訴ふるを要せざれば仁尾顧問も渡韓以來、鋭意規畫して事、漸く其緒に就きたれども本年度の豫算も百五十萬圓の不足を告ぐ此不足は之を何の國に募らんか英、露、獨、佛決して之を拒絶せざるべし就中米國の如きは其階梯既に成れるものありと傳ふ左れど當政府の多數は之を他に依頼するみとをなさずして敢て日本に求めんとす是に於て仁尾顧問官は歸朝の途に上れるなり我邦人が朝鮮の獨立を扶植して東洋の平和を維持するがためには僅少の資金を辦せざるべし其返濟法の如きは今明兩年度の豫算不足額三百萬圓に對して稅關を抵當とし七ケ年後より二十ケ年賦として之を皆濟し鐵道費二百萬圓は鐵道落成より直に之を其抵當となす積なりといふ

鐵道受負は入札に決せん

獨逸人某京仁間の鐵道敷設を議決せるを聞き直に當路者を訪ひて鐵道敷設の議今や可決されたりと聞く日本政府は例により此事業を擧て負擔する事なるべきかと質問したるに當局者は否とよ鐵道敷設は朝鮮國に取りての大事なれば上下とも輕擧を愼み公平を主として入札に附すべし何ぞ日本人のみに托するみとをなさんやと答へしとぞ米國の商賈既に野心あり獨逸人の亦早く注目するみと此の如し

小村辨理公使

來月下旬頃一時歸朝するやの噂あり其用向は固より判然せざれども或は國債募集の事に就きてならんかといふものあり

趙義淵氏入閣

昨年十月八日の事變後權鐷鎭と共に懲戒を命せられて謹愼中なりし副將趙義淵氏は今度特旨を以て軍部大臣に任ぜられ勅任官一等に敍せられたり

閔泳駿の家族入京

春川地方に暴徒蜂起し形勢不穩なるの故を以て同地に在りし閔泳駿の一族は同地を引拂ひて昨日入京したりといふ

商話會

商話會とは内田領事及び居留實業家の發起に成り商業上の意見を吐露し相攻究するものにして會員二十五名順次毎月一回宛其宅に會合する筈にて去る二十五日其第一回を淵上商店に開きたりといふ

○賊魁陳發

過日安平の英人よりシウシウガイに向て送りたる金二千五百圓、阿片若干を茅後尾に於て奪ひ取りたる上其使を傷けたる賊ありしに付百方詮索して頭立ちたるもの一人を縛し取り調べたるとみろ右は有名なる陳發の所爲にして目下同人は十八重溪より程近き北貢穴と云ふに潜み居るとを知り得たるに付十八重溪及び新某庄の守備隊は各一小隊を出して去る二十九日其巢窟を衝きしも例に依り已に逃れて山中に入り其部下數十名をして我に抵抗せしめたれば我兵は擊て之を散らし午後晩く歸營せり尙ほ嚴密に其蹤跡を偵察中なりと臺南よりの報

○東本願寺派中學寮敷地賣買の紛議

大谷派本願寺にては昨年十二月を以て秘密に東京淺草小嶋町なる第二中學寮敷地を賣却せしより府下の各末寺は大に其所置に激昂し總數百何十箇寺擧て鞏固なる團體を組織し本山に向て詰問書を呈出せんと目下奔走中の由は既に報ずる所なりしが今事の次第を細に記せば右中學寮敷地の坪數は一千九百五十二坪程ありて是れ迄一府八縣即ち關八州の信徒にて應分の助力を爲し居たるものなるが本山にては教學擴張の都合に由り同敷地を賣却するの議ありしと見え昨年十月頃に至りうす／＼賣却の風說を爲す者あり又土地賣買周旋人抔の寺院に就き賣否を問質す者もあるより各寺院には寢耳に水の驚き一方ならず中にも府下末寺六組の內淺草別院に近き第一組の組長副組長等二三の人々は早速別

院に赴き輪番大草惠實、事務所
其實否を問ひしに二師共に未だ
切承知せざる旨答へたれば餘儀
長還美契縁師に向け道路の風說
却の儀ある由なれども目下東京
適當の替地を得るは困難なるべ
せよ同所は市區改正の線路に當
賣却するは非常に不得策なり殊
れ爲筋にならず併し遂て賣却の
取計ふべければ兎に角何分の通
を差出したり然るに本山よりは
を以て右有力者は全く事實無根
たるに其後風說はますく熾に
り翌十一月擧行する御講には第
各寺院一統別院に參詣するの例
の件を衆議に附し衆議一致の上
本山に質問するとゝし且つ東
地賣却を不可とし若し遂て敎學
地は其儘に差置き別に東京二十
如何樣にも相成るべく然らざれ
信徒中にて普通の人よりは幾分
云ひ居るものあれば何れにか御
添へて申出するとに一應決定は
すに付き總代の人々は先度無通
出すべきや其處置に付き礙と當
然れども斯る事柄は素より事務
ば兎も角も今一度菊池秀言師に
同師を晉請し同師は以前の
されども多分寮長村上專精師は
直樣其足にて同師方に赴き前上
を問ひしに同師は兼て本山より
委任を受け居るを以て明白に答
中學寮の建物甚だしく頽廢に及
合に迫りたれば同敷地を賣却し
地所を求め建築費の幾分をも償
んとの主意なる旨答へしが總代
る意見を更に布陳して其進退方
承諾して自身は近々西上するを
に御意見を進達し事務者より何
ふべしとのとなりしかば總代は
あるに相違なしと思ひ其儘銘々
賣却の風說起るや府下講中には
に受引けて他人には渡すまじと
別院に對し府下講中より差出す
達するを以て今一時に大金を出
ろ同敷地を講中にて買入れ其地
に充つれば未來永遠の得策なる
れの／＼各寺院若くは事務所
是非共通知せられたしと依賴し
末寺講中一統の期望は此の如く
一應何分の沙汰あるべしと一日
襲もなく昨年も暮れて今年一月
く夫う斯うする內一月半頃に至
取引濟となりたりとの風評總代
捨置きがたしとて即時村上師方
に同師の云へる樣賣買濟となん
見の次第は逐一本山事務所に

[illegible]